



平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年7月29日

上場取引所 東

上場会社名 持田製薬株式会社

コード番号 4534 URL <http://www.mochida.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 持田 直幸

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 専務執行役員

(氏名) 青木 誠

TEL 03-3358-7211

四半期報告書提出予定日 平成23年8月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第1四半期	19,030	△3.1	1,105	△69.5	1,231	△67.3	272	△87.4
23年3月期第1四半期	19,634	△0.7	3,618	△16.0	3,768	△12.2	2,159	△16.4

(注) 包括利益 24年3月期第1四半期 548百万円 (△72.8%) 23年3月期第1四半期 2,016百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第1四半期	2.53	—
23年3月期第1四半期	19.35	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第1四半期	113,543	77,482	68.2
23年3月期	108,577	78,129	72.0

(参考) 自己資本 24年3月期第1四半期 77,482百万円 23年3月期 78,129百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	11.00	—	11.00	22.00
24年3月期	—	—	—	—	—
24年3月期(予想)	—	11.00	—	11.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	41,500	6.0	6,200	△8.6	6,300	△9.5	3,800	△2.2	35.24
通期	83,500	5.0	12,400	6.2	12,600	4.8	7,500	40.6	69.55

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期1Q	119,000,000 株	23年3月期	119,000,000 株
② 期末自己株式数	24年3月期1Q	11,166,123 株	23年3月期	11,155,545 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期1Q	107,836,383 株	23年3月期1Q	111,609,618 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. サマリー情報（その他）に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(4) 追加情報	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
4. 補足情報	9
(1) 主要製品の売上高	9
(2) 医薬品開発状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

医薬品業界は、医療費財源確保の問題を背景とする薬剤費抑制諸政策が継続的に進められ、また国内外の企業間競争が一段と激化するなど、引き続き厳しい事業環境下にあります。

このような状況下、当第1四半期連結累計期間における当社グループ（当社および連結子会社、以下同じ）は前期に引き続き、グループ経営体制の整備、人員の適正化、全社的な生産性の向上への取り組みなど、経営全般にわたる業務改革を推進いたしました。医薬品関連事業では、重点4領域（循環器、産婦人科、皮膚科、救急）にリソースを集中し、スペシャリティファーマを目標として、主力製品を中心とした学術情報提供活動を積極的に展開いたしました。また、東日本大震災での罹災により一時操業を停止していた持田製薬工場（株）本社工場（栃木県大田原市）は、平成23年4月中旬より順次操業を再開し平成23年6月末に全面的に再開いたしました。

ヘルスケア事業は、敏感肌のための基礎化粧品のエキスパートとして事業活動を行い、マーケティングの強化に努め市場開拓を図ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、東日本大震災の影響もあり、190億3千万円、前年同期比3.1%の減収となりました。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業では主力製品の高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤「エパデール」が前年同期を上回る売上高となり、またジェネリック医薬品も順調に伸長したものの、持続性Ca拮抗降圧剤「アテレック」、経口プロゲステロン製剤の子宮内膜症治療剤「ディオナゲスト」等が前年同期を下回り、売上高は181億1百万円、前年同期比3.4%の減収となりました。

ヘルスケア事業は市場が低迷しているなか、抗真菌剤配合シャンプー・リンス等の抗菌ケア製品「コラージュフルフルシリーズ」が堅調に推移し、売上高は9億2千8百万円で、前年同期比3.4%の増収となりました。

次に当第1四半期連結累計期間の利益面ですが、東日本大震災による医薬品関連事業の売上高減少に伴う売上総利益の減少、および研究開発費の増加等により、営業利益は11億5百万円、前年同期比69.5%の減益となりました。また、経常利益は12億3千1百万円で前年同期比67.3%の減益、さらに持田製薬工場（株）本社工場の一時操業停止に伴う損失及び投資有価証券評価損の計上により四半期純利益は2億7千2百万円で前年同期比87.4%の減益となりました。

研究開発の状況につきましては、創薬研究所は独創的グローバル新薬の創製を目指して、引き続き、慢性疼痛、糖尿病・肥満の2分野にテーマを集中して活動いたしました。国内外の機関との共同研究等により研究活動の効率化を図り、敗血症治療薬（抗体医薬）、疼痛治療薬および糖尿病治療薬の導出活動にも積極的に取り組んでおります。

臨床開発面では、尖圭コンジローマ治療薬「ベセルナクリーム」は日光角化症の効能追加について承認申請中です。その他の開発パイプラインも順調に進捗しており、潰瘍性大腸炎治療剤「MD-0901」の臨床第Ⅲ相試験、高血圧症治療用の配合剤「AJH801」（シルニジピン・バルサルタン配合剤）の臨床第Ⅲ相試験、肺動脈性肺高血圧症治療剤「MD-0701」の臨床第Ⅱ/Ⅲ相試験、バイオ後続品G-CSF製剤「FSK0808」の臨床第Ⅱ/Ⅲ相試験、「エパデール」の非アルコール性脂肪肝炎の臨床第Ⅱ相試験（米国）、子宮内膜症治療剤「ディオナゲスト」の子宮腺筋症の効能追加についての臨床前期第Ⅱ相試験、およびヒト間葉系幹細胞を利用した細胞性医薬品「JR-031」の移植片対宿主病（GVHD）を対象とした臨床第Ⅰ/Ⅱ相試験をそれぞれ実施中です。また、「エパデール」のスイッチOTC薬については製造販売承認申請中です。平成23年4月に製造販売承認を取得した抗うつ剤「レキサプロ」につきましては平成23年8月発売に向けて準備中です。

当第1四半期連結累計期間の研究開発費は46億5千8百万円です。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当社グループの当第1四半期連結会計期間末の総資産は、1,135億4千3百万円となり、前連結会計年度末比で49億6千5百万円増加いたしました。

資産の増加は、主に受取手形及び売掛金の売上債権が減少しましたが、手元流動性資金や棚卸資産が増加したためです。負債・純資産の増加は、配当金、法人税等の支払がありました。支払手形及び買掛金の仕入債務や短期借入金の借入れが増加したためです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、今後も厳しい状況が継続すると考えられますが、ほぼ計画に沿った業績で推移していること、平成23年3月期に計上しました災害損失引当金の実際の発生額についても引当額の範囲内に収まると見込まれること、および持田製薬工場（株）本社工場が全面的に操業再開できたことから、平成23年5月13日に公表いたしました連結業績予想を変更しております。

なお、連結業績予想の修正につきましては、本日（平成23年7月29日）公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」を参照してください。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

1. 会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正により、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

2. 表示方法の変更

従来、営業外収益に計上しておりました「ロイヤリティ収入等」につきましては、主に研究開発活動の成果である技術の供与等の対価として重要性が高まったため、当第1四半期連結累計期間より「売上高」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

なお、前第1四半期連結累計期間の「売上高」に含まれております「ロイヤリティ収入等」は、1億1千3百万円であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,538	29,457
受取手形及び売掛金	25,374	24,213
有価証券	9,325	9,327
商品及び製品	6,405	5,167
仕掛品	1,493	3,013
原材料及び貯蔵品	2,771	3,866
繰延税金資産	4,503	4,671
その他	2,779	2,624
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	77,191	82,341
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,248	7,147
機械装置及び運搬具（純額）	3,103	2,897
土地	6,093	6,093
その他（純額）	1,184	1,286
有形固定資産合計	17,630	17,424
無形固定資産	1,167	1,073
投資その他の資産		
投資有価証券	7,289	7,359
繰延税金資産	3,258	3,347
その他	2,039	1,995
投資その他の資産合計	12,587	12,702
固定資産合計	31,385	31,201
資産合計	108,577	113,543

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,993	9,828
短期借入金	875	5,875
未払法人税等	1,809	684
賞与引当金	2,643	1,202
災害損失引当金	2,543	1,984
その他の引当金	977	757
その他	6,258	8,393
流動負債合計	23,099	28,724
固定負債		
退職給付引当金	4,837	4,922
その他	2,510	2,412
固定負債合計	7,348	7,335
負債合計	30,447	36,060
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,229	7,229
資本剰余金	1,871	1,871
利益剰余金	79,494	78,580
自己株式	△10,142	△10,152
株主資本合計	78,452	77,529
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△323	△46
その他の包括利益累計額合計	△323	△46
純資産合計	78,129	77,482
負債純資産合計	108,577	113,543

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
売上高	19,634	19,030
売上原価	7,372	7,046
売上総利益	12,261	11,984
返品調整引当金繰入額	3	—
返品調整引当金戻入額	—	2
差引売上総利益	12,258	11,986
販売費及び一般管理費	8,640	10,880
営業利益	3,618	1,105
営業外収益		
受取利息	11	6
受取配当金	106	102
その他	45	38
営業外収益合計	163	147
営業外費用		
支払利息	6	15
支払手数料	5	4
その他	1	1
営業外費用合計	13	21
経常利益	3,768	1,231
特別利益		
貸倒引当金戻入額	4	—
固定資産売却益	0	—
特別利益合計	4	—
特別損失		
固定資産除売却損	4	1
投資有価証券評価損	—	393
災害による損失	—	310
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	189	—
特別損失合計	194	705
税金等調整前四半期純利益	3,579	525
法人税等	1,419	253
少数株主損益調整前四半期純利益	2,159	272
四半期純利益	2,159	272

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,159	272
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	△143	276
その他の包括利益合計	△143	276
四半期包括利益	2,016	548
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,016	548
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

(1) 主要製品の売上高

主要製品の売上高

(平成24年3月期 第1四半期実績)

(単位：億円)

製 品 名	前 期 平成23年3月期		当 期 平成24年3月期		対前年 同四半期 増減率 (%)
	第1四半期 実績	年間 実績	第1四半期 実績	年間 見込	
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤 エパデール	90	370	91	360	+ 2
持続性Ca拮抗降圧剤 アテレック	35	141	32	150	△ 8
子宮内膜症治療剤 ディナゲスト	11	48	9	50	△ 14
抗ウイルス剤 アラセナーA	6	25	6	23	△ 7
肺炎・ショック治療剤 ミラクリッド	5	20	4	19	△ 12
血液凝固阻止剤 ノボ・ヘパリン	4	17	4	15	+ 5
自律神経調整剤 グランダキシン	4	15	3	14	△ 11
子宮内膜症・子宮筋腫治療剤 スプレキュア	3	13	2	11	△ 12
止血剤 トロンビン	3	11	2	10	△ 12
真菌症治療剤 フロリード	2	11	2	10	△ 3
精神神経用剤 (自社販売分) レクサプロ	-	-	-	10	-
スキンケア製品 コラーージュ類	7	29	7	31	+ 4
スキンケア製品 スキナ類	1	7	1	6	+ 0

(2) 医薬品開発状況

医薬品開発状況

開発番号(製品名、一般名など) : 導入先など			
開発段階	適応症	剤型	備考
MTD-39(ベセルナクリーム、イミキト) : 豪国アイノバ・ファーマシューティカルズ社から導入			
承認申請中	日光角化症	外用剤	<効能追加> 平成23年2月申請
MD-0901(未定、メサラジン) : 英国シャイア・ファーマシューティカルズ・グループ社から導入			
臨床第Ⅲ相	潰瘍性大腸炎	経口剤	
AJH801(未定、シルニジピン・バルサルタン配合剤) : 味の素製薬(株)と共同開発			
臨床第Ⅲ相	高血圧症	経口剤	
MD-0701(未定、トレプロスチニル) : 米国ユナイテッド・セラピューティクス社から導入			
臨床第Ⅱ/Ⅲ相	肺動脈性肺高血圧症	注射剤	
FSK0808(未定、遺伝子組換えG-CSF) : 富士製薬工業(株)と共同開発			
臨床第Ⅱ/Ⅲ相	好中球減少症	注射剤	バイオ後続品
MND-21(エパデール、イコサペント酸エチル)			
臨床第Ⅱ相	非アルコール性脂肪肝炎	経口剤	<効能追加>
MR-20V(未定、ウナスタチン)			
臨床第Ⅱ相	切迫早産	腔坐剤	<剤型追加・効能追加> 一時中断
MJR-35(テイナゲスト、ジエノゲスト) : 独国イェナファーム(ハイエル・ファーマAG)社から導入			
臨床前期第Ⅱ相	子宮腺筋症	経口剤	<効能追加>
JR-031(未定、ヒト間葉系幹細胞) : 日本ケミカルリサーチ(株)と共同開発			
臨床第Ⅰ/Ⅱ相	移植片対宿主病	注射剤	細胞性医薬品

・平成23年3月期 決算短信(平成23年5月13日公表)より変更なし